

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
(専) Y I C 京都工科自動車大学校	昭和59年3月9日	村田 忠男	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4001																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4040																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	一級自動車整備科	—	平成22年文部科学省告示第156号																							
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる自動車業界のスペシャリストとして活躍できる人材を育成する(教育理念)。</p> <p>具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車の安心・安全な交通環境の実現のために正しい知識と高い倫理観を持った人材 2. 即戦力だけでなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に進化し続ける自動車に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感と豊かな人間性を備えた人材。 3. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じ、将来自動車業界の指導的立場やリーダーとなりうる人材。 4. 自動車整備科の要件に加えて、一級自動車の整備士国家資格の取得。 5. 自動車のメンテナンスにたいして、単なる故障診断ではなくどのように悪いのかを判断できる高度な専門的知識・専門的技術。さらに、IT、電子制御、ハイブリッド技術など、自動車技術の進化にともなう、整備士に求められるハイレベルな能力を習得した人材。 6. 確かな整備技術と信頼。エンジニアとしての能力に加えサービスなどのスキル、整備の基本はもちろん最新車種に対応した整備技術、エコや整備工場におけるリサイクル・環境保全の管理、そしてユーザーとの信頼関係を構築するための保守管理、カーライフのアドバイスなどができる人材。 7. 就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、電気自動車等、進化し続ける自動車に対応できる素養を備えた人材。 																										
認定年月日	平成27年2月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	昼間	151	62	0	106	0	0																				
単位																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
90人	50人	0人	4人	9人	13人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率90%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)																							
長期休み	■学年始: 4月1日～4月6日 ■夏季: 7月24日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日		卒業・進級条件	卒業の要件: 1・2年次の必須科目(国土交通省履修基準)73単位および、一般教養科目の必修3単位以上を含む、合計76単位以上の履修に加え、3・4年次3・4年次の必修科目(国土交通省履修基準)71単位および、必修4単位を含む76単位以上に1・2年次の75単位を加えた合計151単位以上の履修。 3年生以降の科目受験の要件: 二級ガソリン自動車整備士及び二級ジーゼル自動車整備士の両方を取得 学費及び教材費等の完納																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等) ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 自動車ディーラー、自動車メーカー ■就職指導内容 キャリアサポート室は、学生の皆さんのこれらの支援を進めるための中心的な役割を担っています。学生の皆さんが、最適な就職ができるように個別相談、各種情報の提供、会社説明会やガイダンス・セミナー、個別面談、個別面接指導などの実施。 ■卒業生数 5人 ■就職希望者数 5人 ■就職者数 5人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月31日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士(筆記)</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>一級小型自動車整備士(口述)</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士(筆記)	②	5人	5人	一級小型自動車整備士(口述)	②	5人	4人	二級ガソリン自動車整備士	②	6人	6人	二級ジーゼル自動車整備士	②	6人	6人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
一級小型自動車整備士(筆記)	②	5人	5人																								
一級小型自動車整備士(口述)	②	5人	4人																								
二級ガソリン自動車整備士	②	6人	6人																								
二級ジーゼル自動車整備士	②	6人	6人																								
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和2年4月1日時点において、在学者43名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者43名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み。クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。hyper-QUアンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。		■中途退学 0%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者に対し初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 ・前年度の給付実績者数: なし																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより商業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。
- ・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
竹原 嘉章	一般社団法人 京都府自動車整備振興会 教育課 課長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	①
伊藤 康久	ネットヨタ京華株式会社 取締役 管理本部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
嶋 雅明	有限会社嶋自動車電機 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
鳥居 和浩	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
松田 晋吾	株式会社レオタニモト 専務取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
森脇 勝幸	いすゞ自動車近畿株式会社 取締役 管理部門 統括	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
村田 忠男	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 校長		
喜多 好洋	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 教務課長		
澤 智春	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 総合支援室長		
山根 大助	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 内部監査・IR戦略室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年5月17日 15:30～16:40

第2回 令和3年11月中旬～下旬 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

企業連携授業や技術講習会に関する項目について留学生もおられて、会社をアピールするというよりは業界へのイメージをよりよく思っただけよう改善してはどうか。学校側でできることについては授業への取り組むスタンスについてしっかりとできていることなど事前学習指導が重要。

品質クオリティ、仕事の向き合い方、モノの根本的な考え方、我々の時代は常に競争で育ってきた。如何に競争相手を越えて自分たちがよくなっていくかというような中で磨かれてきた。長年経験を積んだようなエンジニアからはよく部下の仕事のクオリティが低いと聞く。2重、3重チェックしてお客様に車両を引き渡すが、締め忘れがあったり、締めが足りないなど。現場にいればさまざまな世代の方々と一緒にしごとをすることになる。学生は学校という環境に守られてきた。留学生を見ていると海外の方はとてもハングリーと感じている。成長もすごい。近い将来、根本様がおっしゃられたように日本人の方教わる時代が来るかもしれない。すでに日本人の方の学ぶ意欲などレベルが追いついていないかも知れない。卒業時のハングリーさを持っていただくようご指導いただきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追いついていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、業界研究(インターンシップ)等積極的に行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業技術講習の科目では、国内外の自動車メーカーの販社(ディーラー)との連携により、最新の車両を持ち込んでいただいたの最新技術や、業界の近況を学習する。また、キャリアデザインの授業では、メーカーの行っている新人研修を学生にも体験させ、就職して必要なスキルを事前に学習する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業技術講習	国内外の自動車について、最新技術を学ぶために各自動車メーカー様、及び各販売会社様から講師を招くと共に新型車両を持ち込んでいただき授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社京滋マツダ ・京都三菱自動車販売株式会社グループ ・スズキ自販連 ・株式会社ホンダカーズ滋賀中央 ・いすゞ自動車株式会社 ・いすゞ自動車近畿株式会社 ・近畿スバルグループ ・京都日産自動車株式会社 ・株式会社シュテルン大津 ・株式会社ファーレン滋賀 ・ネットヨタ京都株式会社 ・京都トヨタ自動車株式会社 ・トヨタL&F近畿株式会社 ・滋賀ダイハツ販売株式会社 ・株式会社KTGホールディングス
実務体験実習Ⅰ 実務体験実習Ⅱ	実務体験実習Ⅰ(前期)、実務体験実習Ⅱ(後期)のそれぞれ15日間、各学生の内定先にてインターンシップを行う。同期間については、学生は日々実習レポートを作成し実習先の指導担当者に提出。同時に本校教員が巡回指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社京滋マツダ ・株式会社ヤナセ ・株式会社ネットヨタ滋賀 ・大阪スバル株式会社 ・滋賀日野自動車株式会社 ・株式会社スズキ自販近畿 ・京都トヨタ自動車株式会社 ・ネットヨタ京華株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

・学生・保護者・地域社会(企業)に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人京都中央学院教職員研修規程」に基づき、①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「2020年 SUBARUオンライン研修会(SUBARUの安全思想と安全技術)」(連携企業等:)

期間: 令和2年11月23日(月)

対象: 教員

内容: (1) SUBARU車の最新技術の紹介 テーマ: SUBARUの安全思想、最新技術

(2) グループディスカッション テーマ: 将来のメカニック人材確保について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「遠隔授業の実例と課題」(連携企業等: 京都府専修学校各種学校協会)

期間: 令和2年 9月26日(土)

対象: 教員

内容: オンライン授業の実施例の紹介と課題

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整備主任者研修」(連携企業等: 京都府自動車整備振興会)

期間: 令和3年12月

対象: 教員

内容: 新型車両に於ける点検・整備について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教学マネジメント」(連携企業等: ベネッセ教育総合研究所 教育研究企画室)

期間: 令和3年8月20日(金)

対象: 教員

内容: 「教育目標を達成するために教育課程を編成し、その実現のための教育指導の実践・結果・評価の有機的な展開に向け、内部組織を整備、運営」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2) 学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3) 教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4) 学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8) 財務	9 財務
(9) 法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学生支援について

・各企業様もしくは卒業生が母校に求める支援内容と実態の把握不足。
→一級自動車整備士の口述試験（卒業後の5月）については、今後も勉強会を水曜日に行う。また卒業生に勉強会の日程を連絡する際に、企業様にもお知らせする。また企業連絡懇談会等でも把握に努める。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
徳田 悦生	一般社団法人 京都府自動車整備振興会 専務理事	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
伊藤 康久	ネットヨタ京華株式会社 取締役 管理本部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
嶋 雅明	有限会社嶋自動車電機 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
鳥居 和浩	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
松田 晋吾	株式会社レオタニモト 専務取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
岡 咲穂	滋賀ダイハツ販売株式会社 サービスエンジニア	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和3年6月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、取得可能資格一覧、就職実績
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<https://www.vic-kyoto-technical.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車整備科) 令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		エンジン構造Ⅰ	ガソリン・エンジンに関する基礎知識（エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など）を学習し、理解する。	1前	32	1	○			○			○	○
2	○		エンジン構造Ⅱ	ディーゼル・エンジンとは何か、ガソリン・エンジンとの構造や作動の違い、共通点等を学習する。	1後	32	1	○			○			○	○
3	○		シャシ構造Ⅰ	3級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。	1前	32	1	○			○			○	○
4	○		シャシ構造Ⅱ	3級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。	1前	32	1	○			○			○	○
5	○		電気工学Ⅰ	電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 電子・電気関係（計算含む）、電磁石・電磁誘導、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置、計器類 冷暖房装置	1前	32	1	○			○		○		
6	○		電気工学Ⅱ	電気の基礎的な内容及び次の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 電子・電気関係（計算含む）、電磁石・電磁誘導、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置、計器類、冷暖房装置	1前	32	1	○			○		○		
7	○		基礎自動車工学Ⅰ	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する	1前	32	1	○			○		○		
8	○		基礎自動車工学Ⅱ	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する	1後	32	1	○			○		○		○
9	○		自動車工学	1年生の科目で学んだ基本的な計算問題や基礎工学で学んだ知識を、2級整備士レベルに高める。整備士に求められる図表の読み方や計算問題の理解力を、共に解いていくことで高めていく。最終目標である国家試験合格を目指して実際に出題された当該分野の問題を解くコツを身につける。	2前	32	1	○			○		○		
10	○		オートメーション基礎	自動運転や自動ブレーキなどの日々進化を続ける最新技術に対して、各メーカーの考え方や技術を理解する。オートメーション化に使用されているセンサーやECUの制御、センサーの調整方法などを理解し、自動車整備士に必要な知識を学習する。	1前	32	1	○			○		○		
11	○		IT・マテリアル	2万点以上に上る自動車部品に使用される、金属・非鉄金属・樹脂・ガラスなど多くの原料の材質、製造方法、用途などを理解する。 また、PCを使用しWordとExcelについても併せて学び、CADなどPCを使用した製図の基盤とする。	1後	32	1	○			○		○		○
12	○		新エネルギー工学	エネルギーに関する知識などを学習や熱機関に関する構造・作動、熱機関に使用される燃料や油脂について学習し、2級ガソリン自動車及び2級ディーゼル自動車に合格できる知識を修得する。	2前	32	1	○			○		○		

13	○		危険物	自動車にとって、欠かすことのできない燃料のガソリン、軽油や潤滑剤のエンジンオイル、ミッションオイルなどは消防法により危険物に指定されています。それらの知識を知ることによって安全に取り扱うことが出来るようになる。自動車業界にとっては重要な資格である。	1前	48	1	○					○	○				
14	○		新自動車工学E	自動車の各装置の電子制御化が進む中、整備技術の内容も大きく変わりつつあり、エンジン関係では、電気回路に加えてハイブリッド車、圧縮天然ガス自動車、筒内噴射式エンジン、コモンレール式噴射システム等について講義する。	3前	64	1	○					○		○	○		
15	○		新自動車工学C	自動車の各装置の電子制御化が進む中、整備技術の内容も大きく変わりつつあり、シャシ関係では、電気回路に加えてCVT、車両安定制御装置、SRSエア・バッグ、プリテンショナ・シートベルト等について講義する。	3後		1	○					○			○	○	
16	○		材料CAD	自動車には多岐にわたる種類の材料が使用されているが、どのような材料を選ぶかによって製造費用と製造技術に関係してくる。最近の自動車は、自動車の高性能化、経済性の観点から軽量化しつつ、耐久性及び信頼性を向上させることが求められている。この授業では、今なお自動車に多く用いられている鉄鋼を始め、様々な自動車用材料の学習をすると共に、その材料の持つ力学的な計算を含めた材料力学の学習と併せ、設計図面の描き方として二次元CADによる製図の学習も行う。	3前	32	1	○					○			○		
17	○		エンジン整備Ⅰ	1年時に学んだガソリン・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解した上で、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。	2前	32	1	○					○		○			
18	○		エンジン整備Ⅱ	1年時に学んだディーゼル・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解した上で、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。	2後	32	1	○					○		○			
19	○		シャシ整備Ⅰ	2級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。	2前	32	1	○					○		○			
20	○		シャシ整備Ⅱ	2級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。	2後	32	1	○					○		○			
21	○		電装整備Ⅰ	三級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了しているが、実車においては整備作業や制御が複雑となる。1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする。	2前	32	1	○					○		○			
22	○		電装整備Ⅱ	三級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了しているが、実車においては整備作業や制御が複雑となる。1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする。	2前	32	1	○					○		○			
23	○		故障探究	自動車の各装置の基本構造と機能を理解した上で、故障の原因を知り故障探究の進め方を学ぶ。	2後	32	1	○					○		○			
24	○		高度エンジン整備技術	自動車用エンジンの電子化に伴う整備技術の基礎となる電気回路の読み方から応用整備の方法までを学習する。また、最新の機器を使用した整備の方法も併せて学習する。	3通	64	2	○					○			○	○	
25	○		高度電装品整備技術	シャシ電子制御装置のテキストについて、各種のセンサや信号についての講義を行った後、本編のテキストの内容に入るが、シャシ分野の中では比較的理解しやすいオート・エア・コンディショナ分野から講義を開始する。加えて、振動と騒音について実習と連動しながら故障部位の特定方法を学ぶ。	3後	32	1	○					○		○			

39	○		機械加工実習	金属加工のうち、手仕上げ加工の作業における基本姿勢及び使用する工具の取扱い方法並びに各種工作機械の安全な使用方法について学習する。また、自動車のシャシ及びボデーの接合に使用されている溶接方法について学習し、金属の性質、溶接熱による金属の歪み発生等についても確認する。金属材料の鉄鋼について、硬さの試験法及び金属組織の検査を行う。電気関係では、サーキット・テストの内部抵抗による測定誤差及びオシロスコープによる波形の読み方について学習する。故障診断に用いる外部診断機の取扱い方法について学習する。	3 前	8						○	○	○				
40	○		測定作業実習	計測器の基本的な取り扱い及び測定作業とその応用ができるように習熟させる。	1 前	54						○	○	○				
41	○		応用測定実習	金属材料の鉄鋼について、硬さの試験法及び金属組織の検査を行う。電気関係では、サーキット・テストの内部抵抗による測定誤差及びオシロスコープによる波形の読み方について学習する。故障診断に用いる外部診断機の取扱い方法について学習する。	3 前	18						○	○	○				
42	○		エンジン実習 I	エンジン実習を行うことで、エンジンに関する基礎知識と技術を習得する。	1 通	160	6					○	○	○				
43	○		エンジン実習 II	1年時に学んだガソリン・エンジン及び、ディーゼル・エンジンの本体や各装置の基本的な整備技術を理解した上で、より高度な整備技術や、エンジンの点検及び調整方法を身に付ける。	2 通	176	6					○	○	○				
44	○		シャシ実習 I	シャシの基本実習を行うことにより、整備の基礎知識や基礎技術の習得を図る。	1 通	160	6					○	○	○				
45	○		シャシ実習 II	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備知識や技術の向上を図る。不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。	2 通	176	6					○	○	○				
46	○		電装実習 I	次の各装置について、学科授業と連動させた内容で構造作動を学習する。 電子・電気関係（計算含む）、電磁石・電磁誘導、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、灯火装置、計器類、冷暖房装置	1 通	160	6					○	○	○				
47	○		電装実習 II	1年次に修得した基礎知識を土台に応用力を付け、整備技術の幅を広げる。電気回路の故障診断に活用する診断機器・テスト類の取り扱いが出来る技術を習得させる。	2 通	176	6					○	○	○				
48	○		総合実習 I	自動車の日常点検及び新車無料点検の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明出来る応酬話を身につける。整備士として必要な知識でもある、積載車（ウインチ）の取り扱いについて学習し安全作業を身につける。また、自動車以外の幅広い知識を身につける為、二輪自動車の構造を学習する。	1 後	80	3					○	○	○				
49	○		総合実習 II	自動車の定期点検整備の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明するだけでなく整備士として、お客様へ車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスが出来るよう接客応酬話を身につける。日々進化している自動車の自動運転や自動ブレーキ技術に使用されている電装部品（センサなど）に対しての、調整方法を学習し実施する。また、自動車の点検方法だけではなく二輪自動車の点検方法を理解し知識を身につける。	2 前	108	4					○	○	○				
50	○		企業技術講習	いすゞ自動車(株)教育部の講師を中心に、いすゞ自動車製k型トラック（ELF）を教材として実習を行う	3 通	100	3	△				○	○	○	○	○		

62	○		エンジン故障診断実習	エンジンに関する故障診断を行い、故障探求の基本的な流れを講義する。 最新の外部診断機を使用し、サーキットテスタ、オシロスコープ等の計測機器との連携診断方法を講義、実習させる。 測定機器を使った故障診断についての講義、実習を行う。	4通	120	4				○	○	○					
63	○		シャシ故障診断実習	シャシに関する故障診断を行い、故障探求の基本的な流れを講義する。 最新の外部診断機を使用し、サーキットテスタ、オシロスコープ等の計測機器との連携診断方法を講義、実習させる。 自動車コンポーネントの単体分解組立を通して構造研究を行う。	4通	120	4				○	○	○					
64	○		電装品故障診断実習	実際に充電器の作成を行うことにより、図面作成から構造研究、性能実測等を行う。 電気自動車（コンバートEV）の分解組み付け、点検、故障探究を行う。 最終的には、電装品の故障診断を行い、点検修理のみならず、問診、作業説明の方法を学ぶ。	4通	120	4				○	○						
65	○		サービス・マイスター実習	整備知識、技術のみならず、昨今の整備業界に求められるスキルを醸成すべく、フォロー活動のノウハウ、質の高い問診のノウハウ、納車対応から売上管理までの知識を習得させる。 また、指導教育のノウハウを理解させることにより、それぞれのキャリアアップの一助とする。	4後	64	2	○	△			○	○	○				
66	○		総合診断実習	総合診断（応接・接客・問診・診断・説明）を習得する	4通	128	4	○	△			○						○
67	○		キャリアデザインⅠ	学校行事（入学式、体育大会、消防訓練、ほりかわ祭、国内研修）や就職活動に向けた研修資格取得（危険物取扱者）に向けた模擬試験 JAMCA 全国統一模擬試験（3級）に向けた対策授業	1通	64	2	△	○			○						○
68	○		キャリアデザインⅡ	学校行事（入学式、体育大会、消防訓練、ほりかわ祭、国内研修）や就職活動に向けた研修資格取得（危険物取扱者）に向けた模擬試験 JAMCA 全国統一模擬試験（3級）に向けた対策授業	3通	64	2	△	○			○						○
69	○		キャリアデザインⅢ	学校行事（入学式、体育大会、消防訓練、ほりかわ祭、国内研修）や就職活動に向けた研修資格取得（危険物取扱者）に向けた模擬試験 JAMCA 全国統一模擬試験（3級）に向けた対策授業	4通	64	2	△	○			○						○
70	○		損害保険募集人	損害保険の募集に携わるため、保険契約者の利益を損なうことなく、適正な保険募集を行うために必要な知識を十分身に着ける。 基礎単位：損害保険の基礎や募集コンプライアンスなど損害保険の募集のための基礎的な知識の習得 自動車単位：自動車保険の仕組みや契約条件、管理、周辺知識の習得	2前	32	1	○				○						○
71		○	企業研究	就職先と自己とのマッチングのために業界を知り働く意識をつける	2後	32	1	○				○	○	○	○	○	○	○
72		○	企業研修	就職先と自己とのマッチングのために業界を知り働く意識をつける	1後	32	1				○	○	○	○	○	○	○	○
73		○	ビジネス能力	社会人に必要な仕事の基礎・基本能力（ジョブパス3級）	2前	32	1			○		○			○	○	○	○
74		○	ビジネス能力（上級）	ビジネス文書に関わる知識・技術（日本漢字能力検定 準2級）	3前	32	1			○		○			○	○	○	○

75		○	ビジネス文書力	ビジネス文書に関わる知識・技術 (日本漢字能力検定 準2級)	2 後	32	1	○			○		○	○	
76		○	コンピュータ	基本IT技術	2 前	32	1				○	○		○	○
77		○	プレゼンテーション	パワーポイントの基本操作とプレゼンテーション (プレゼンテーション検定 3級)	1 後	32	1	△			○	○		○	○
78		○	論理的思考力	日常の様々な話題を通して論理的考え方を学ぶ (ビジネス数学検定 3級)	2 後	32	1	○			○			○	○
79		○	総合対策	登録試験(二級二輪自動車整備士)合格のための講義	3 前	32	1	○			○			○	
80		○	イベントプロデュースⅠ	ほりかわ祭や学校行事の運営	1 前	32	1	△			○	○		○	○
81		○	イベントプロデュースⅡ	ほりかわ祭や学校行事の運営	2 前	32	1	△			○	○		○	○
82		○	イベントプロデュースⅢ	ほりかわ祭や学校行事の運営	3 前	32	1	△			○	○		○	○
83		○	イベントプロデュースⅣ	ほりかわ祭や学校行事の運営	4 前	32	1	△			○	○		○	○
84		○	ボランティア活動Ⅰ	ボランティア活動を通して仕事の意義を考える	1 後	32	1				○	○		○	○
85		○	ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動を通して仕事の意義を考える	2 後	32	1				○	○		○	○
86		○	ボランティア活動Ⅲ	ボランティア活動を通して仕事の意義を考える	3 後	32	1				○	○		○	○
87		○	ボランティア活動Ⅳ	ボランティア活動を通して仕事の意義を考える	4 後	32	1				○	○		○	○
合計					85科目	5068単位時間(168単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
1・2年次の必須科目(国土交通省履修基準)73単位(2,216時間)および、選択必須3単位(94時間)以上を含む76単位(2,310時間)以上の履修に加え3・4年次1・2年次の必須科目(国土交通省履修基準)71単位および、選択必須4単位(128時間)以上を含む、75単位(2,292時間)(以上の合計151単位(4,602時間)以上の履修。 履修方法:ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。